



AET0 Asian and Middle Eastern Studies, Part IA

Thursday 9 June 2022 9.00am-12.00pm

Paper J3

Modern Japanese texts 1

Answer **all** questions.

Write your number **not** your name on the cover sheet of each answer booklet.

STATIONERY REQUIREMENTS

20 page answer booklet

Rough Work Pad

SPECIAL REQUIREMENTS TO BE SUPPLIED FOR THIS EXAMINATION

None

You may not start to read the questions printed on the subsequent pages of this question paper until instructed to do so.

Section A

(1) Translate the following passage from a **seen** text into English [25 marks]

次は、前のページの「春暁」よりも二十年ほど後の漢詩です。このころ、都の長安では戦争が始まりました。作者の杜甫は、その戦争で反乱軍にとらえられてしまいました。そのとき書いた詩です。

「春のながめ

都は、戦争でめちやめちやになってしまったが、山や川は昔と変わらず残っている。

町なかにも春がめぐってきたが、草木が青くしげるだけで、春を楽しむ人はいない。

こんな戦争の時代を悲しく思い、美しい花を見てもなみだがこぼれる。

家族との別れをうらめしく思い、楽しそうに鳴く鳥の声を聞いても、はつとおどろかさされる。

敵のこうげきは、もう三か月も続いたままだ。

家族からの手紙はたくさんの金に値するほどありがたい。

なげきながら白くなった頭をかきむしると、髪の毛はますます少なくなり、かんざしも使えなくなりそうだ。」

という意味です。

杜甫の家族は、戦争をさけて都をはなれていました。ひとりきりでとらわれていた杜甫の、深い悲しみがうたいあげられています。

Question 1 continues...

次も杜甫の詩です。戦争が終わってからの何年かは、役人として都の長安で暮らしましたが、皇帝のいかりをかう事件に巻きこまれたため、杜甫は都を追われることになりました。これは西の町、成都にいたとき作った詩です。題名の「絶句」とは、四行の詩のことをいいます。

「四行の詩」

川はエメラルドグリーンに映え、水辺を飛ぶ鳥
はいっそう白く見える。

山には新緑の木がしげり、咲きほこる赤い花は
燃えださんばかりである。

今年の春も、みるみるうちに過ぎさろうとして
いる。

いったいいつになったら、長安に帰れるのだろ
うか。」

という意味です。えがかれているのは美しい風景
ですが、作者の表現しているのは悲しみです。風
景が美しければ美しいほど、長安に帰りたい気持
ちはつのるばかりです。

結局、杜甫は、その後も長安に帰ることができ
ず、五十九歳で、この世を去りました。

IRUSAWA NORIYUKI and KUROHAMA, *Juppun de yomeru monogatari. Rokunensei* (2010), p.162-165

(TURN OVER)

(2) Translate the following passage from a **seen** text into **English**. [20 marks].

24

新しいメガネ

前川 誠

「お似合いですよ」

「いやいや、見に来ただけですから」

「お客様、視力はどれくらいですか？」

「えっ、視力ですか。それは……よく分かりませんが、そんなに悪くないですよ。

ただ、カレンダーが時たまよく見えないことがあるくらいで」

「そうですか。そうしましたら、メガネを掛けられますと、驚かれますよ。世の中が一変したって」

「へえ、世の中が一変するほど驚きますか？」

「はい、勿論です。今までのお客様の中には、付き合っている彼氏と待ち合わせした時、遠くはなれた交差点で別の女性と別れる所を見たとか、部屋の家具と家具の隙間に五百円玉を見つけたとか、街ですれ違いざまに人の鼻毛が見えたとかいろいろ

Question 2 continues...

25 新しいメガネ

「よ
ろあります。中には、私の顔の毛穴が見えたとか言われた方もいらつしやいましたよ」
「ハハハ。そうですか。でも、僕はそんなに驚かないでしょ。だって、元々そんなに視力悪くないですから」
「いえ、とんでもありません。お客様も必ず世の中が一変したと驚かれます」
「はあ、そうですか。必ず……ですか？」
「はい。間違いありません」
「じゃあ……」
僕は新しいメガネを掛けた。すると、世の中が一変して、驚いた。
「あつ、男だつたんですか……」

Atōda Takashi, ed., *Shōto shōto no hanataba* 1, 2009, p. 24-25.

(TURN OVER)

(3) Translate the following passage from a **seen** text into **English** [25 marks].

整理整頓ができる

自分に身につけているからこそ指導することができるのです。そして片付けられない子どもたちに疑問を持つことができ、指導すべきポイントをおさえることができるのです。きちんと片付けられず雑然とした雰囲気では、当然子どもたちもきれいにするわけではなく、結果としてクラス環境は荒れた空気へと変化していきます。さらには無造作に置かれた椅子などにぶつかり、けがをさせてしまう可能性まで含むことになります。十分に注意したい事柄です。

自分なりに努力していても、何か足りない、何だかうまくいかないと感じるようであれば、自分が「この店すてき」と思うデパートやショップを何軒か見て回るとよいでしょう。商品の並べ方や仕分け方などがどのようなになっているのかを見るのは、自分の整理整頓術に十分役立ちます。

気持ちのよい空間とは整理整頓された場所です。そのためにはすべてのものをカテゴリーでくくるとよいでしょう。たとえば、①高さで統一する、②厚みで統一する、③種類で統一する、④機能で統一する、などです。また、整理する箱も、形をそろえたり、色彩を合わせたりします。色に関しては大変重要です。同一色や同系色であったり、アクセントとして反対色を用いるなどの工夫をしましょう。自分の好きな色を中心に考えるとよいでしょう。

YATAGAI Masaaki and UENO Michiko, *Kore dake wa mi ni tsuketai. Hoikusha no jōshiki* 69, 2006, p.68-69

SECTION B

(4) Translate the following passage from an **unseen** text into **English** [30 marks].

沖縄は、今でこそ、日本の都道府県のひとつですが、むかしは、琉球王国という独立した国でした。

古くから、中国との交流もさかんだったので、そこには、独自の文化や習慣が生まれ、長く息づいています。

ところが、江戸時代のはじめに、現在の鹿児島県にあたる薩摩藩が、琉球王国を、武力で支配しました。

また、明治時代になると、こんどは、日本の政府が、やはり力づくで、琉球王国を日本の国の一部にしました。このとき、沖縄県が生まれました。

昭和時代になり、日本は、アメリカやイギリスなど、世界の国ぐにを相手に、戦争をはじめました。太平洋戦争（一九四一年―一九四五年）といわれる、大きな戦争です。

一九四五年八月、日本は、この戦争に負けました。すると、沖縄は、アメリカに、ゆずりわたされることになりました。戦争に負けた日本は、戦勝国であるアメリカに、何を要求されても、したがわなくてはならなかったのです。

それでは、なぜアメリカは、沖縄を、自分のものにしようと考えたのでしょうか。それは、沖縄が、アメリカにとって、とても、つごうのよい場所だからです。

IKKOKUDO: *Boku wa, itsu de mo boku datta.* (2012), p. 12-14

(TURN OVER)

Vocabulary

琉球王国	Ryūkyū Kingdom
鹿児島	Kagoshima
さかん	active, flourished,
息づいている	still alive
薩摩藩	Satsuma Domain
支配する	dominate, rule
力づく	with force, forcefully
太平洋戦争	Pacific war
ゆずりわたす	hand over
要求する	To demand
したがう	To follow, obey, observe, conform with

END OF PAPER

Page 8 of 8